

平成二十八年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程

小・中学校教科教育コース 国語教育専修

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙は、オモテ面を書き終えたらウラ面に続けて書くこと。
- 四、解答用紙の他に、下書用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 五、解答時間は、一二〇分である。
- 六、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
- 七、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

非公開

非公開

(小林隆、澤村美幸、『ものの言い方西東』、岩波新書、二〇一四年、二二五〜二二二ページ、抜粋・一部改変)

問一 傍線部「この問題は、保護・継承と教育・しつけとの狭間にあつて、簡単には結論が出せない」とあるが、「この問題」とは何かを説明した上で、「この問題」が簡単には結論が出せない理由を本文の主旨に沿って説明しなさい。(二〇〇字程度)

問二 小学校の教室には、多様なものの言い方を身につけた子ども達がいる。そのような教室において、あなたは教師として、どのように「話すこと」の教育を展開していきますか。具体的な状況を想像しながら、あなたの考えを述べなさい。(六〇〇字程度)

平成二十八年年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程

小・中学校教科教育コース 国語教育専修

出題の意図

本専修では、国語科の世界の豊かさを生かして、多様な素材文を提供し、受験生が付け焼き刃でない「国語科へのこだわり」「国語への思い」を持っているかどうかを、小論文試験において測りたいと考えている。平成二十四年度は世界各国の国語教科書について紹介した素材文を、二十五年度は琉球方言のもつ美しさと生命の輝きについて述べた素材文を、二十六年度は短歌における「オノマトペ」の効果について述べた素材文を、出題文としてきた。昨年度は、問題文そのものは「学力」に関する一般的な教育論を素材文としたが、出題において「国語教育」に適用させることで、国語教育専修らしさを出した。

本年度は、「ものの言い方」の地域差を通じて、地域文化の保存・継承と教育・しつけの問題について深く考えさせる素材文を用意した。近年、日本語においても琉球方言や八丈方言等は、消滅の危機に瀕した言語として保存・継承が叫ばれている。バラエティーに富んだ日本語、日本文化について「ものの言い方」すなわち「話すこと」の教育を考えさせたい。

問一では、文章の主旨を的確に読み取れているかを測り、問二では、右に述べたとおり「話すこと」の教育観を通じて国語教育への構想力を測りたい。まさにこの入学試験問題は、受験生が、教育学部学校教育教員養成課程のアドミッションポリシーにおける「1 教員として子ども及び社会と関わっていききたい人」「2 教育の理念と実践を広く深く学ぶ意欲のある人」に適う人材であるかどうかを確認しうる内容となっている。